

栃木県立栃木高等学校 出張講義報告

評議員
東畑郁生（東京大学）

地盤工学会の出張講義制度で、私としては2度目の高校講義を行った。事前に学校側からの要請があり、生徒の進路指導の一環として、地盤工学以外に工学部というものの中身の説明をお願いしたい、ということがあった。当日は、私の他に法曹と材料科学の講師も招かれており、3会場分散で講義を行った。栃木高校は創立106周年ということで、伝統を感じさせる講堂を備え、掃除も行き届いた立派な学校であった。

講義の初めに、これからの時代にわが国は何をもって世界に存在意義を主張するのか、という問題を提起した。私の答えは、

- ・ 人類文明存続のための努力の中心
- ・ 世界に存在する諸問題の解決手段の淵藪
- ・ 問題とは：食糧・エネルギー資源の枯渇、環境汚染の回復、自然災害の軽減、新流行病の予防など
- ・ 幸福な人生のあり方→宗教的？

というものである。第4項は工学部には難しいが、他は対応可能であろう。

高校生の進路選択においては、どこの学部や学科を目指すのか、という問題は、経験も情報も不足する中で、決断がなかなか難しい。しかし既存の学部や学科の枠組みは20世紀の文明に適した制度ではあったが、世の中の流れが変わりつつある現在、大胆な組み替え、融合と分割が必至であることを述べ、現時点の進学先選択よりも、本人の志とエネルギーとが人生を支える根本であることを伝えた。そして、あくまで既存の枠ではあるが、現在の工学部にはどのような学科が存在しているか、を見せ、建築学科はいざ知らず、土木系は不人気であることも正直に告げた。

とは言っても上のような4項目が21世紀の大テーマになるならば、土木や地盤工学の活躍場所は、新たに数多く生まれるはずである。今まで培った能力を新たな分野に適用し、新しい世界の創造に貢献することが重要である。そのため必要な発想力を伸ばさなければならない。そしてこれからの世代には、「何か一つを究めよう、世界から尊敬される力を持つよう、他人にまねのできない能力を持つよう」と訴えた。

そのあと、私が日ごろかかわっている地盤災害とその軽減の話に入り、過去の事例や個人レベルで災害から逃れる工夫を説明した。また先般従事したスマトラにおける津波災害調査の話も、生徒の希望により、お話しした。余談としてのコレラやアメーバ赤痢で苦しんだ話、某国で深夜に誘拐されながらも無事生還した話は、生徒にもわかりやすかったであろう。最後に質疑があり、地震の防災の心得について聞かれたので、よく言われる水や食糧以外に、トイレの心配をしておくように述べた。また雨降って地固まる、というのは本当か、と尋ねられたので、サクシオンと見かけの粘着力の話も、きちんと説明した。